

平成 26 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495400192	事業の開始年月日	平成23年12月1日
		指定年月日	平成23年12月1日
法人名	株式会社 日本アメニティライフ協会		
事業所名	花物語たま南		
所在地	(〒214-0036) 川崎市多摩区南生田 4-25-16		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成26年 9月23日	評価結果 市町村受理日	平成27年4月27日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

花物語たま南は、小田急線百合ヶ丘駅から、バスで10分程の餅坂というバス停より、徒歩2分程にある施設です。施設周辺は閑静な住宅街であり、地域に溶け込んだ運営を目指しています。

花物語たま南は平成23年12月1日に認知症対応型共同生活介護と小規模多機能型居宅介護の併設施設として開設しました。ご利用者様がいつまでも「自分らしく」過ごしていただけるよう「明るく、安心で、愛情のある」施設を目指して支援を行っています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成26年10月31日	評価機関 評価決定日	平成27年2月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】

当グループホームは法人が県内で数多く運営している「花物語」を冠した事業所のひとつであり、木造2階建ての建物内に小規模多機能型居宅介護事業所を併設している。小田急本線・百合ヶ丘駅からバスで約10分、餅坂（もちぎか）バス停から見える小高い丘の中腹にある。周辺は戸建ての住宅が多く、ところどころに林や菜園、花畑が見られる。1階と2階の仕様は、おおむね同じ造りになっており、玄関、エレベーター、廊下の一部は小規模多機能型事業所との共用となっている。フロアの中央部分に広い面積で居間と食堂が配置され、台所が隣接している。この両側に利用者の居室、一方側にトイレと浴室が配置されている。内部は広々としたゆとりある空間となっている。

【職員の調和の取れた連携作業】

管理者はじめ、職員同士のコミュニケーションが良好で、日常業務において効果的に連携している。朝礼での作業内容の確認や申し送り記録での伝達事項を共有していくことで、利用者に快適な生活を提供できるよう努めている。職員からの意見や要望は皆で検討し、介護業務に反映させていく体制がある。

【利用者の健康と安全に配慮】

感染症等への対策を実践している。入浴時は一人ひとりの入浴後に湯を替えて、浴場の消毒をしている。また館内は空気清浄器や加湿器を使用して、館内の衛生に努めている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花物語たま南
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	施設理念を念頭に置き、入居者様・ご家族様・地域の方々との連携のもと、明るく笑顔あふれるよう、安心して生活できるよう、愛情が感じていただけるように、施設が入居者様の居場所と感じていただけるよう日々の介護を行なっています。全体会議の中で施設理念の共有を図り、日々の申し送りやケアカンファレンスの中でも確認を行うようにしています。	事業所開設時に前管理者と全職員で作成した理念を、後に「明るく」「安心で」「愛情のある」の表題を付して内容を分かりやすくし、地域密着型サービスとしての意義を確実に実践するための目標としている。朝礼で唱和、申し送り時に確認するなど、日常業務の中で常に理解を深めて利用者支援に活用している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、近隣の方にご参加いただけるような流しそうめんや夏祭りなどの行事を行い、交流を図っています。散歩の際には声をかけて挨拶していただいたり、職員も含めて会話を楽しんだりする場面もあります。	長沢町内会に加入し、交互の交流が保たれるよう、種々の行事や集まりを企画して実践している。近所の方が植木の手入れをしてくれたり、子供を連れて遊びに来てくれる。事業所も「健康まつり」や「足湯」の場に招待して、地域住民の健康維持に協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症についての話をし、ご家族や地域の方と一緒に理解を深めるようにしています。また、行事を開催することで実際に利用者との交流を図り、活かしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のご意見から具体的に、利用者用の服薬チェックリストを作成したり、少しの時間の中でも歌を歌ったりという工夫をしています。報告には行事の内容などの活動のことや、職員の増減など、数値的な話もしています。	会議は2ヶ月ごとに開催している。民生委員、事業所オーナー、家族等が参加している。行政からの出席は頻度としては少ないが、11月の会議には出席する予定である。事業所側からの状況報告があり、参加者から意見や要望をもらい全般的な評価を確認して、今後の運営に役立てている。	

5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>多摩区近隣の地域包括支援センターや、多摩区の高齢者支援課へ訪ねたり、連絡を取ったりして相談しています。併設する小規模の困難事例についてグループホームとしても相談や提案をし、実際にグループホームへの入居を行いました。</p>	<p>区役所の担当部署や地域包括支援センターとの連携が保たれており、事業所を含めた3者で総合的なカンファレンスを行った事例もある。区主催の「グループホーム意見交換会」に参加して情報を得ている。また「介護いきいきフェア」に出て、他事業所と交流している。</p>	
---	---	--	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修にて『身体拘束ゼロの手引き』をもとに、事例検討を含めて、職員への指導を行っています。現在身体拘束を行っている入居者様はいらっしゃいませんが、必要に応じて家族を含め話し合いを行っています。また、施設玄関については防犯上施錠していますが、入居者様のご希望に応じて職員と共に外出していただいています。	職員は身体拘束の事例を検討すると共に、研修や日常業務の中で職員同士で話し合い、確認し合っている。「ダメ」など、言葉による拘束も排除している。表玄関は防犯上、また法人の意向もあり施錠している。各フロア出口は危険防止対策として簡易ロックを設置しているが、常時の見守りで注意しており、利用者の出入りを制限したりはしていない。	これまでに、職員が気づかない間に利用者が外に出してしまった例はありませんが、万が一の場合の対応策の一つとして、近所の方からの通報やその場での見守りを願うなど、協力を働きかけることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の中で、事例検討を含め、どういう場合が虐待になりうるケースなのかを話し合い、理解を深めています。職員も虐待を見過ごさないように意識を高く持つように心がけています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で権利擁護や後見制度について話し合っています。また、ご家族様からの相談で成年後見の手続きのお手伝いをしたり区役所へご相談に伺ったりしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、話し合いを多く持ち、お互い納得の上でご入居いただいています。特に、終末期ケアや、医療行為に関する疑問を具体的に説明し、転倒の不安がある方には、対応方法の具体的な事例を挙げ、ご家族のご意向として、ケアに反映しています。		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時の面談や、随時の電話連絡により、家族の意見を取り入れるよう努めています。日々の利用者との関わりや家族との相談の中で、食事に関することや薬に関すること等のご要望があり、運営推進会議で話し合い、食事メニューの変更などを随時取り入れています。</p>	<p>家族等に定期的に送る「たまま新聞」で事業所の様子を知らせ、意見をもらっている。訪問時の面談や電話、サービス担当者会議の際にも意見や要望を聞くことにしている。「薬を飲んだかどうか、分からなくなる方への対応を工夫してほしい」と家族から依頼され、お薬カレンダー表を用意し、飲んだ時は本人に○を付けてもらう工夫をした事例があった。</p>	
----	---	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社全体の運営会議やスタッフ会、社員会を通じて意見や提案を検討し、よりよいものにできるよう努めています。日々のケアやカンファの中で、意見の検討を行いながら、随時取り入れています。	職員からの意見は面談や日常会話で、または朝礼、申し送りの記録などで確認している。全員が情報を共有して業務に反映している。清潔維持に使用するタオルを増やしてタオルウォーマーを設置したり、食事をアレンジして提供したりするなど、意見が取り入れられ、実践されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新時に個人面談を行い、就業時間の増減や、契約社員や社会保険の加入についての希望等、契約条件などを考慮し、雇い入れを取り交わしています。意欲や力（知力・体力・精神力）のあるものには、リーダーやその上を目指してもらうよう、伝えています。無資格者には、資格取得支援制度などの奨学金制度も整備してあります。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の定期的な実施や外部研修への参加・資格取得を推奨するなど、個々のスキルの向上を働きかけています。また、法人内の、開設前のグループホーム就業者を、実習生として迎え、お互いの気づきを勉強しました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市町村等からの研修等や他施設見学に参加する事や、多摩区GH連絡協議会との情報交換やネットワークを構築するよう努めています。また、他事業所との職員間の交流も行っており、サービスの向上についても話し合いをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご家族やご本人に要望や不安ごとを聞き、利用開始時にはアセスメントをしっかりととり、会話の機会を多く持つことで、信頼関係を築けるように努め、どんな事でも話していただけるような関係性を持つようにしています。ご本人からの要望に対しては傾聴し、ケアに反映させるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人ご家族が困っている事や不安な材料や要望を聞き取るよう常に連絡を取り合い、アセスメントや介護支援計画書に反映させ、安心して利用していただけるように努めています。例としては、入居者の小遣い持参について、ご家族から要望があり、小さな金額に収めていただくこと、ご家族が管理していただくこと、来設時に確認すること、紛失の可能性もあるという説明をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症の度合いや、おかれている環境を把握し、入居者と家族の物理的精神的環境を考慮し、GHが適切かどうかも考慮し、サービスにつなげています。場合によっては、小規模多機能型居宅介護や、他事業などへの紹介も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を第一に尊重し、本人のADLや意欲に沿った方法で、職員や他利用者と共に行うことで完成し、仕事ができる喜びを分かち合い、他者と協力しながら生活できるように努めています。例えば食事の後片付けの一連の流れを、分担し責任を持ってして頂いています。		

19	<p>○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>常にご家族の意見も反映できるようにし、ご本人の情報をご家族とも共有し、一方通行にならないように心がけています。帰宅願望の強い方への対応については、声掛けの仕方をご家族に助言を頂いています。また生活歴の情報収集を行い、それをもとに職員間でも相談し、ケアに反映させています。必要時にはご本人の要望に応じ、写真や思い出の物等を持参してもらっています。</p>		
----	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に使用していた美容院や、以前からのお知り合いの方また、遠方の親類の方々が訪れたりされ、関係性の継続を図っています。また入居前から恒例行事に行っている家族旅行への参加も継続的にできるように支援しています。	利用者の知人や友人、家族の訪問があった時は、居室でお茶を飲みながら歓談している。電話の利用支援も積極的に行っている。外出は、家族の協力を得て希望の場所へ出かけている。利用者の要望に寄り添った関係維持支援を心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生日会や季節の行事、盆踊り大会等、入居者同士の親睦を深めるため合同で行っています。 また、良好な関係にある1Fの入居者と2Fの入居者とのイベント交流も心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族を通じて、他事業者への情報提供等、支援を行っていきます。入院の際のお見舞いや手紙の発信などにより良い関係性が継続できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のケアの中でアセスメントを行い、申し送りやカンファにて、意向や希望の把握を随時行っています。ご本人の要望にあわせ、食事内容を変更したり、お散歩のお手伝いをさせていただくなど、個人の自立性を大切にしたケアを行っています。	個々の利用者への声かけで意向を確認し、連絡ノートや申し送りでそれらを共有する。入居前の生活歴を把握しておくことや言葉遣いに注意しながら、様々な話を聞くことができている。話せない方は仕草から判断し、内容を確認して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居後も、利用していた担当ケアマネジャー及び、家族や本人から情報を得て、今までやってきた家事や生け花等の趣味等が継続できるよう、利用に至る敬意や生活環境なども職員間で共有し、これまでの生活習慣が継続できるような支援に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のアセスメント以外に、ケアプランの更新時の際にもモニタリングや評価を行っており、職員一人ひとりが、利用者の現状をしっかりと把握し、必要な支援について個別ケアに努め、話し合い対応しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や日々のケアの中において、モニタリングやアセスメントを行い、本人や家族の意向に近づいた介護計画にする為、ご本人との会話を大切に、面会時家族や担当者会議にて職員からの情報を多く得て、介護計画書を作成、職員間で共有を行っています。	介護計画は本人と家族の意向に沿って作成している。支援経過記録を参照し、定期的にモニタリングやカンファレンスを実施し、職員や担当医師の意見を取り入れて、当人にとって最適な支援内容となるよう計画を見直している。今後は利用者の健康面に係わる看護師の意見を十分に取り入れ、介護計画に反映する方法を検討中である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に、時間ごとのご様子や、入居者の言葉や様子を記録し、どういう思いを抱いているのかをリサーチし、日々の細かな情報や気づきを記録に残し、申し送りやカンファにて情報の共有及び、介護計画書への反映、見直しを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に現状必要なサービス、今後必要になるサービスは何であるかを考え、本人と家族の関係性（今までの生活暦等）を考慮しながら、かかりつけ医の受診の支援や親類との関係の調整など、必要なサービスにつなげるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の会員になっており、回覧板や町内会から情報を得て、この夏も盆踊り大会に参加しています。地域活動への参加等を通して、心身の力を発揮し豊かな暮らしを楽しんで頂くよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の定期往診を受けていただいています。心身状態について家族や主治医と常に連携を取り、本人が適切な医療を受けられるよう支援しています。また必要時には、主治医の指示を頂き、外部受診の支援をしています。	協力医の訪問検診は内科診療が主である。眼科、皮膚科等の診療、または従前からの主治医を希望する方は家族が対応して外部の医療機関を受診している。家族の対応が得られない場合は事業所職員が付き添って支援している。診断結果については報告を受け、協力医と結果を共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の申し送りやケアの中で、相談を行い、個人記録に記入など、情報の共有を行い、適切な受診や看護につなげています。また、看護師による介護職員への指導も行っており、適切な情報の伝達が行えるよう取り組んでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中のお見舞いや家族との連絡をとることにより、本人の状態を把握するよう努めています。また退院にあたっては、ご家族、病院関係者の方と話し合いを持ち、ケアの方向性、リスク等を説明しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針について入居時に説明し同意を交わし、家族の意向を確認しています。病気発見時は家族の協力を得る為早い段階より十分に話し合い、主治医との連携をとり支援に取り組んでいます。また、その方にあった急変時対応マニュアルを作成し、職員間で共有しています。どのような状態の時を悪化とするのかを明記し、職員に周知しています。	「利用者の急変時や重度化した場合等における対応に係る指針」で事業所が対応できる内容を詳細に説明し利用者と家族から同意を得ている。重度化した場合の医療機関の支援や事業所での看取りは、関係者全員で検討し合意した内容で実施する。実践に向けての職員研修はマニュアルを活用して行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時の研修や、社内研修で急変対応や事故対応の研修を行い、発見時の対応や報告、状況等事例や対策をたて、職員全員が対応できるように努めています。また、不安がある職員には、個別に対応の仕方を伝えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に川崎市多摩消防署と連携し、日中の避難訓練、夜間想定訓練を実施しています。また、災害時備蓄品も備えています。	事業所内で年2回、うち1回は消防署員の立会いを得て避難訓練を実施している。消火器での消火、夜間の対応を訓練している。飲料水、食料、オムツなど3日分の備蓄状況を確認できた。防災設備等の点検を定期的に行っている。	建物外に避難した時の見守り要員など、近所の方から協力が得られるような働きかけを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であるという事を意識し、常に尊敬と敬意の念を持って接しています。たとえ、不穏状態が続いたとしても、その方の生活歴や性格を考慮し、言葉掛けや対応をしています。着脱や靴の脱ぎ履きの順番もご本人を尊重し、ご本人の順番に合わせて介助を行う工夫をしています。	利用者へ愛情をもって接する、言葉遣いに配慮する、個人のプライバシーを損ねないなど、介護の実務において留意すべき事項を取り上げ研修している。トイレなどは同性介助を基本とする。記録された個人情報 は 厳重に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	危険な行為や言葉、他の方々に不快感や不穏な状態、健康状態に支障にならない限り、自己決定できる支援を心がけています。購入品の希望があった場合は、一緒に買い物へ行き、自分で選ぶように働きかけています。又、普段の着替えの洋服や飲み物も、自分で選べるよう声掛けを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や更衣、配膳の手伝い等、可能な限りご本人の意向を優先しています。働きたいのか、散歩をしたいのか、又は、のんびりと過ごしたいのか、聞いてから、行動を共にしています。終身時間も体調等を考慮し、時間だから寝ていただく等はしておりません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意思や希望を尊重し、ほとんどの入居者が自分で衣服を選んでいます。季節やTPOに合った身だしなみができるよう職員からの声掛けも行っています。		

40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みやできる力を把握し、入居者に確認しながら、調理をする人、片づけをする人を決め、職員と一緒に、準備や調理を行っています。また、食事が楽しめるよう音楽をかけながら召し上がっていただくこともあります。	食材は専門業者から配送され担当職員が調理する。美味しい食事を楽しく食べられるよう、時には職員が独自にアレンジした食事を提供している。行事食として寿司の出前や、そうめん流しなどを楽しんでいる。職員が事前に検食している。食事中はBGMが小音量で流れていた。	
----	----	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスの摂れたメニューにより調理を行っています。個人の状態に合わせたご飯の量を盛り付けたり、適切な飲水量が確保できるように、声掛け等、支援を行っています。水分摂取量や食事摂取量は記録に残し、一日の総水分摂取量に応じて、ご本人の嗜好に合わせた飲み物などを提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に応じたケアを実践しています。毎食後、口腔ケアの介助が必要な方には、声掛けや見守りや、必要に応じて、介助を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご本人の尿意や便意の訴えにより声掛け、誘導を行っています。尿意や便意の訴えの無い方、間に合わない方は、記録により排泄パターンを把握し、時間を見計らって声掛け誘導を行っています。	個々の排泄記録を参考にして日中は適時に声をかけ、トイレ誘導をしている。夜間はオムツ利用で対応するが、入居後、オムツからリハビリパンツに移行できた事例もあり、自立排泄に向けて介助の仕方を常に工夫して努力をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの食事量、水分量を把握し、排泄の記録を残す事で、便秘の早期発見と予防に努めています。また、随時体操を取り入れたり、必要な飲水量の確保、おやつ工夫（ヨーグルトや寒天使用）にて排便コントロールの支援を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の意志を尊重し体の状態も考慮し、気分良く入る声掛を工夫しています。拒否がある場合はその方に合わせた声掛や誘導をしています。入浴ができない時が続くような場合は、足浴や清拭で対応しています。	同性介助による、週2回の入浴を基本としている。個々の状態に応じて日時等の変更にも配慮している。日曜日を入浴できなかった時のための予備日としている。湯河原温泉から取り寄せた湯で「足湯」を楽しめるほか、季節の湯、入浴剤使用で入浴に興味を持てるように工夫している。一番風呂、夕方の入浴、シャワー浴、清拭介助など種々の対応をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安心 して気持ちよく眠れるよう支援して いる	各入居者様が、自由に居室やフロアにて過 しています。お一人での移動が不可能な場合 は、その時の状態観察を行ったり、ご本人 に聞いてから、休息の支援を行なってい ます。夜間安眠して頂けるよう、日中の活動も 考慮し支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について理 解しており、服薬の支援と症状の変 化の確認に努めている	服薬は特に配慮をし、症状の変化や経過など は主治医へ必ず報告し、連携に努めていま す。また、看護師が記載した往診記録の確 認、又は、個人記録に添付してある薬剤情報 を確認しながら、服薬の支援を行なってい ます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 せるように、一人ひとりの生活歴や 力を活かした役割、嗜好品、楽しみ ごと、気分転換等の支援をしている	誰かの役に立つ事で生活に張り合いを感じて 過ごせるよう支援に努めています。台所仕事 が好きな方には、調理や片付け、テーブル拭 き等を職員と一緒にこなっており、職員から 常に感謝の言葉をお伝えしています。また、 手先の器用さに応じ、折り紙や箱作りを实践 し、職員や他利用者から感謝されることによ り、喜んでいただいています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそっ て、戸外に出かけられるよう支援に 努めている。また、普段は行けない ような場所でも、本人の希望を把握 し、家族や地域の人々と協力しなが ら出かけられるように支援している	可能な限り外出を支援しています。お盆の時 にお墓参りに家族と共に出かけた方が数人い ます。また、日常的な買い物で、歩きや車に て、近所のお店に買い物に出かけています。	本人の意向やADLの低下などで全員が 外出できる状況ではないが、日曜日は 散歩、駐車場での日光浴、玄関脇での 足湯などを実施している。花見や祭 り、紅葉見物、初詣などの外出を企画 しており、実践されている。調査当日 は、家族対応での外出をして昼食時に 帰って来た方の嬉しそうな顔が見られ た。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひとりの 希望や力に応じて、お金を所持し たり使えるように支援している	金銭管理は主に事務所で行っており、使った 額を請求させていただき立替制度を取って います。ご希望に応じ、家族管理の下、小額 のお金を所持できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	用事がある時や、家に帰りたいという訴えがあった時には、家族了解の下、電話ができるように支援を行なっています。また、手紙のやり取りができるよう支援し、大切な人との関わりが続けられるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各共有の空間に、購入や散歩にて近隣の方からいただいた花を飾っています。また、玄関にはご家族の了承のもと、入居者様の写真を飾り、フロアの壁には入居者様の作品等を飾り、入居者様とご家族や来訪者との会話にもつながっています。	居間、食堂、廊下で構成する共有の空間はシンプルで、利用者に混乱を与えずらい仕様である。明るい色のフローリング、広い窓からの採光、やわらかい光の照明などで居心地良く過ごせるよう配慮している。加湿器、空気清浄器を備えている。過剰な飾りつけはしていない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他ユニット同士でも、気の合う入居者のところへ、遊びに行き、気分転換を図っています。入居者各々が、自由に居室やフロアへの移動を行っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やお気に入りの写真（アルバム等）や置時計などお持ちいただき、そばに置く事により、自宅に近い感覚で、安心して居心地よく生活できるよう、ご家族と一緒に工夫をする配慮をしています。	エアコン、ベッド、ロッカー、洗面台を既設している。カーテンは防炎加工した好みの製品を利用者が各自用意している。その他の備品も常用していたものを持ち込み、自由なレイアウトで室内を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内設置の洗面台では口腔ケアや整髪、身だしなみ等自分でできるよう、個別性を重視した環境を目指し自立した生活が送れるよう支援しています。その人の力量に合わせて、家事の継続を行っています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 花物語たま南

作成日 平成27年3月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	<p>避難が起きたとき、近隣の役割やお願いしたい内容を定めていない。</p>	<p>近隣住民や近隣施設の避難やその他緊急時の協力を求める。運営推進会議で内容を定める。</p>	<p>日頃より近隣の学校や近隣住民と運営推進会議など、避難時の協力体制を書面などで確認しておく。</p>	6ヵ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。